

『未来共創』投稿規定

1. 投稿資格

大阪大学大学院人間科学研究科に所属する教員と学生、未来共創センターと関連のある団体や個人(大阪大学オムニサイトの連携団体など)、未来共創センター主催の研究会に参加している教員および大学院生(研究科を問わない)、その他編集委員会が適当と認めた方が投稿できます。

2. 審査・校閲

論文については、編集委員会が選出した複数の査読者による査読結果に基づき、編集委員会が掲載の可否を決定します。

論文以外の原稿の校閲に関しては編集委員会が行い、その結果に基づき、改訂・修正の可能性があることをご了承ください。投稿された原稿の掲載の可否は、編集委員会が決定します。

3. 原稿形式

原稿は、マイクロソフト・ワードで読み込み可能な形式で作成してください。また写真・図表は、執筆者が別途本文とは別のファイルで提出してください。具体的には、写真と図表を入れた本文と、本文とは別に写真・図表をまとめたファイルを提出してください。

また、写真データは、単独のファイルとしてご用意ください(ワードに貼り付けた場合も)。写真データは印刷時にぼやけないように高画質のものを用意してください。表は、外部校正に伴い統一のフォーマットで作り直しますので、画像ではなく、データが取り出せる状態のエクセルもしくはワードでご用意ください。

4. 原稿送付について

未来共創センター・ジャーナル事務局宛に締め切りまでに送付してください。送付手段は、10MB以下のファイルの場合はメールの添付機能、10MB以上のファイルの場合はメール以外のデータ共有機能(filesender、Gdrive、OneDrive等)で送付してください。草稿ではなく完成稿をお送りくださるようお願いいたします。なお、文字化けする可能性のある特殊な文字、記号を使用する場合は、正しく印刷された状態を確認できる電子ファイル(例えばスキャンした画像データなど)も、事務局宛に送付してください。一旦ご提出いただきました原稿は返却いたしません。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 未来共創センター『未来共創』編集委員会 事務局

TEL : 06-6879-4050 (内線 4050) E-mail: miraikyoso_journal@hus.osaka-u.ac.jp

5. 原稿の区分と枚数

本誌には、広い意味での「共創」や「共生」にかかわる「論文」「研究ノート」「報告(フィールドワーク、講演報告)」「書評」「エッセイ」等の区分を設けます。また、原稿の区分ごとに、下記のとおり、文字数制限を設けます。分量には、図表・注・参考文献なども含まれます。なお、新たに区分を設けるときには編集委員会の審議を経て決定します。

論文(査読有り)	12,000~25,000字程度(英文:6,000~12,000語程度)
研究ノート	12,000字程度(英文:6,000語程度)

報告（フィールドワーク、講演報告）	5,000～12,000 字程度（英文：2,500 語～6,000 語程度）
書評	2,000～3,000 字程度（英文：1,000 語～1,500 語程度）
エッセイ	2,000 字程度（英文：1,000 語程度）

※ 2025 年度（『未来共創』第 13 巻）以降、本誌における投稿区分を、従来の「フィールドワーク報告」から「報告（フィールドワーク、講演報告）」へと改称します。これに伴い、従来のフィールドワーク報告に加え、未来共創センターが主催または共催した IMPACT オープンプロジェクトに関連する講演会における発表内容の報告も「報告」区分で受理対象となります。「報告（講演報告）」の投稿規定は、本誌の投稿資格を有する者が、当該講演内容および会場での質疑応答等を含めて記述した原稿とします。原稿の校閲は編集委員会が行い、その結果に基づき改訂または修正を求める場合があります。投稿された原稿の掲載の可否は、編集委員会が最終的に決定いたします。

6. 研究倫理について

本誌に投稿される「論文」および「研究ノート」の原稿が、1) 「ヒトを対象とする研究」、2) 「ヒト遺伝子情報を含む研究」、3) 「実験動物を用いる研究」である場合については、専門分野の倫理規定に従って、研究機関の当該の倫理委員会で審議され許可されていることを「方法」に述べてください。なお、何らかの理由により「方法」に述べられない場合については、投稿時に編集委員会に申し出ることとします。

7. 使用言語について

使用言語は日本語および英語とします。その他の言語は受け付けておりません。英文原稿を提出される場合は、英文校閲を受けた後、英文校閲の証明書も合わせて提出してください。（英語が母語の方の場合は、英文校閲証明書は必要ありません。）

8. 構成

論文：題名、要旨、キーワード、本文、注、参照文献、英語題名、英語要旨、英語キーワード

研究ノート：題名、要旨、キーワード、本文、注、参照文献、英語題名、英語要旨、英語キーワード

報告（フィールドワーク、講演報告）：題名、要旨、本文、注、参照文献

書評：編・著者名、書名、副題、版数、出版地、出版社、刊行年、総頁数、定価

エッセイ：題名、本文

※ 英文で提出する場合は、日本語の題名・要旨・キーワードは、必要ありません。

※ 論文、研究ノートにつきましては、必ず題名（日本語・英語）の後に名前を記入してください。

9. 要旨

論文、研究ノート、報告については要旨を提出してください。

要旨：400～500 字程度（英語要旨の場合、300 語程度）とします。

英語要旨：300 語程度とします。

※ 英文で提出する場合、日本語の要旨は必要ありません。

10. 様式

- 1) 原稿はA4判縦置き横書きとし、フォントは10.5ポイントとします。
- 2) 題名の下に、氏名・所属・連絡先（電子メールアドレス）を明記してください。
- 3) 本文中の見出しは、章は1、節は1.1、1.1.1の順とします。
- 4) 使用言語を日本語とする場合、論文および研究ノートでは、題目・キーワードに英訳、英文要旨を付記してください。
- 5) 文中の数字はすべて半角とします。日本語における句読点は「、」「。」（全角）を使用してください。
- 6) 図表の題目は、原稿中の図表の差し込み位置に記載してください。図表は、各々通し番号（表1、表2、図1、図2）をつけてください。
- 7) 文献引用・参照文献などの記載形式は、基本的に以下の記載方法に準じてください。

文献引用・参照文献の記載方法

<文献引用>

文献引用は、本文中に（著者名 刊行年：頁数）と表記するか、あるいは後注にて示すこととします（括弧は全角、スペースは半角）。

*本文中に表記する場合の例

…である（栗本 2008: 65-66）。

栗本（2008: 65-66）は…と指摘している。

（Koizumi 2005; ヒベイロ 2007）

（栗本 2006; 2008） 同一著者による複数の論文・著者を参照する場合

*後注で表記する場合の例

本文中で引用する文献について、書誌情報を後注で示す場合には下記例に倣って表記し、「前掲書」「op. cit.」の使用を避けてください。「同書」「同頁」「ibid」は、著者名を併記する等、指示文献が明確にわかるように表記してください。また、後注で示した場合でも、末尾に参照文献一覧を付してください。繰り返し同一論文を引用する場合、略称を使用することを認めます。

著者の場合 編著者『表題』（出版地ないし出版社）発行年、巻数、頁。

日本語著者の場合、「出版地」を省略してもよい。

論文の場合 著者「表題」『雑誌名』巻号（発行年）頁。

<参照文献>

参照文献は、使用言語ごとに区分して一覧表示してください。日本語文献の配列は、著者名（姓）の50音順とします。日本語以外の言語によって書かれた文献の配列は、著者名（姓）のアルファベット順とします。同一著者の文献が複数あれば刊行年順に列挙してください。

■雑誌論文

栗本英世

2006 「戦後スーダンの政治的動態—包括的平和協定の調印から一年を経て」『海外事情』54(4): 77-92。

Koizumi, Junji

2005 Pluralizing Anthropology. *Anthropology News* 46(7): 9.

Morita, Atsuro and Gergely, Mohácsi

2013 Translations on the move: A review essay. *NatureCulture* 2: 6-22.

■論文集所収の論文

栗本英世

2008 「教育に託した開発・発展の夢——内戦、離散とスーダンのパリ人」石塚道子・田沼幸子・富山一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』pp.45-69、京都：人文書院。

ヒベイロ, グスタボ・リンス

2007 「複数のグローバル化——代替的な（ネイティブに代わる）トランスナショナルな過程と行為者たち」久保明教訳、小泉潤二・栗本英世編『第3巻 トランスナショナルリティ研究』（「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006）pp.49-108、大阪：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」。

Malkki, Liisa H.

2001 Figures of the Future: Dystopia and Subjectivity in the Social Imagination of the Future. In E. Kurimoto (ed.) *Rewriting Africa: Toward Renaissance*, pp.239-261. JCAS Symposium Series 14. Osaka: JCAS, National Museum of Ethnology.

■単行本

栗本英世

1996 『民族紛争を生きる人びと——現代アフリカの国家とマイノリティ』京都：世界思想社。

Hartigan, John

2015 *Aesop's Anthropology: A Multispecies Approach*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

Daston, Lorraine (ed.)

2004 *Things That Talk: Object Lessons from Art and Science*. New York: Zone Books.

■翻訳書

ギアツ, クリフォード

2002 『解釈人類学と反=反相対主義』小泉潤二編訳、東京：みすず書房。

■Web サイト

環境省編

2013 「環境白書・循環型社会白書／生物多様性白書 平成 25 年版」
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h25/index.html> (2013/10/17 アクセス)

United Nations

1977 U.N. Doc. S/PV. 2046, 4 November 1977
<http://www.un.org/en/documents/ods/> (2013/10/17 アクセス)

上記以外の場合は、各分野の標準的な記載方法に従うものとします。

1 1. 提出にあたる注意事項

大学院生による投稿の場合、必ず指導教員の承諾を受ける必要があります。指導教員の承諾署名欄を設けた提出書は HP においてあります。原稿提出前に必ず提出してください。なお、提出方法は以下のように行なってください。まず原稿執筆者が提出書(word形式)の記入事項を記入してください。次に、記入した提出書を原稿執筆者が指導教員にメールで共有した上で、最終的に指導教員から『未来共創』編集事務局宛に「件名：『未来共創』投稿提出書 (原稿提出者の名前)」と記し、メールで提出してください (<miraikyoso_journal@hus.osaka-u.ac.jp>宛)。

※「提出書」は、未来共創センターのジャーナル『未来共創』のホームページよりダウンロードしてください。(<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso/ja/journal/>)

1 2. ウェブサイトでの公開

本誌はオンライン・ジャーナルの形式をとります。原稿はジャーナル『未来共創』のウェブサイトに掲載されます。また、すべての原稿は原則として「大阪大学機関リポジトリ OUKA」、および J-STAGE にて公開するものとします。

ジャーナル『未来共創』 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso/ja/journal>

大阪大学機関リポジトリ OUKA (桜華) <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>

J-STAGE 『未来共創』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/miraikyoso/-char/ja>

2013年10月18日制定

2013年10月22日改訂

2014年11月19日改訂

2015年5月26日改訂

2016年12月15日改訂

2019年7月29日改訂

2020年7月29日改訂

2020年11月9日改訂

2022年10月13日改訂

2023年7月4日改訂

2025年2月21日改訂

2025年3月25日改訂